

相模原支部創立20周年記念事業を開催

地域とともに20年！感謝の気持ちを込めて

横浜弁護士会新聞

発行所
横浜弁護士会
横浜市中区
日本大通9番地
☎045-211-7707
URL <http://www.yokoben.or.jp/>

6月14日、当会相模原支部創立20周年記念事業、式典・懇親会が、ホテルセンチュリー相模大野にて開催された。

午後1時から、記念事業として、市民参加による裁判劇「深夜のひばり通り殺人未遂事件」取り調可視化ビデオは語る」が上演された。支部会員14名に、公募市民3名の他、裁判員役として司法書士等の隣接士業から6名に出演して頂いた。シナリオは、支部会員の手作りである。

事前のインターネットを通じてPRの段階から反響が大きく、上演期日前前に予定していたタウン誌でのPR以前に、すでに定員を超えてしまうほどの人気で、裁判や司法についての、市民の関心の高さが伺われた。

出演者は、イギリス在住の女優・演技指導者である山中結莉氏の指導を受け、本番に臨んだ。当日の上演では、素人の弁護士とは思えない迫真の演技が続き、観客が物語

に引き込まれている様子が伝わってきた。

劇は、弁護人役の佐々木敏尚支部長の「無罪に弁護士生命を賭ける」とした最終弁論に続き、裁判長役の橋本慎一会員が「人を裁くことの難しさ」「証拠を吟味することの重要性」を裁判員に訴えるシーンで静かに終了。観劇者全員による投票の結果、122対15で、被告人は無罪となった。最後に、出演者が全員で一礼すると、感動した聴衆からの拍手が鳴りやまなかった。観客には、市民のための弁護士ガイドを兼ねた記念誌や「みみん」と「のるん」のグッズも配られた。

(上)出席した相模原支部会員一同 (下)盛大に開催された式典・懇親会

平成26年度

関東十県会夏期研究会のご案内

日時：平成26年8月23日(土) 13時～
場所：横浜ロイヤルパークホテル



横浜弁護士会は、神奈川県内に法律事務所を持つ弁護士全員が加入する法定団体です。

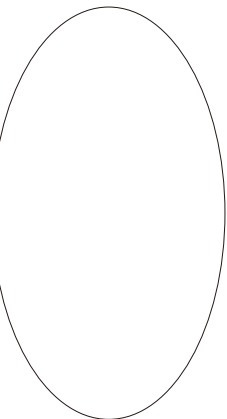
引き続き、午後3時30分より、生島弘康横浜地方裁判所相模原支部長、村越進日弁連会長、若旅一夫関弁連理事長、加山俊夫相模原市長等の来賓を含め、184名の出席者で、式典・懇親会が開催された。式典では、来賓の挨拶に続き、谷口隆良初代支部長が、「相模原支部20年の回顧と展望」を話した。

その後の午後4時30分から懇親会は、小野会長の挨拶から始まり、和やかな雰囲気の中、軽妙な司会のもと、笑いが絶えない楽しい進行となった。支部若手会員によるスライドを使った支部紹介は、微笑ましい場面の中で支部の歴史を振り返った。そして、アトラク

ションは、石橋忠文会員のピアノに、地元の若手演奏家に参加してクラシック音楽を中心とした演奏を披露して頂き、20周年のお祝いに花を添えた。最後は、出席した支部会員全員が登壇し、代表で松本素彦20周年記念事業実行委員長が感謝の言葉を述べて閉会となった。記念品として、地元

「アベノミクス」は
何を目指しているのか

憲法問題シンポジウムに浜矩子教授ら



講演する浜矩子教授

経済学者である浜教授は、経済活動は人間を幸せにするための活動であり、人権の礎であるべきとして、人間の営みよりも経済効率を優先する「アベノミクス」を批判し、安倍政権の成長戦略が目指すのは世界制覇であり、「富国強兵」であるとの見方を示した。すでに「富国」である日本

多様性と包摂性

これを避けて日本が目指すべきは、「多様性」と「包摂性」の出発点であり、浜教授は、現在の日本国憲法が示すのがこの方向であって、みんなでこれに向かって行かなければならないと訴えた。

憲法問題を、世界経済との関係でマクロな視点から考え帰結を導いてみせた浜教授の講演は、新鮮さと説得力に満ち、有名な箇所に衣着せぬ語り口とも相まって、会場を大いに沸かせた。

(会員) 尾家 康介

(奥園) 龍太郎

山ゆり

JR東日本が、足湯を楽しめる山形新幹線「とれいゆ つばさ」を運行する。6両編成のうち1両が足湯専用の車両で、1度に8人が足を湯に浸しながら車窓の風景を楽しめる、とのことである。

▼私は温泉は好きだが、足湯にはあまり興味はなかった。裸になってゆつくり湯につかる開放感、足湯では味わうべくもないと思ったからである。▼しかし、逆に裸にならずに短時間で楽しめる気軽さが受けたのか、近年足湯は増えているようである。温泉場では大抵無料で楽しめる足湯が設置されていると聞く。▼しかも全身浴と同じように血行がよくなり、更に免疫機能もアップさせるという。実験結果も出ているそうである。そう聞けば行ってみたくなるのが人情。しかし関内近辺で足湯専用の施設は見当たらなかった▼でも足湯は大きめのバケツ1つあればどこでも楽しめる。そう、事務所でもできるではないか。足を湯に浸しながら起案すれば、良い書面が書けそうな気がする▼事務局からどのような目で見られるか少々怖いので、まだ私は実行していないが、是非近い将来試してみようと思う。皆さんもいかがでしょうか。

中小企業のためのASEAN進出支援セミナー

サポート体制の構築が急務

5月9日に当会会館で開催されたこのセミナーは、国際交流委員会がインドネシアへ友好訪問した際に親交を持った現地法律事務所を足がかりに、業務改革委員会中小企業海外展開業務支援部会が企画し開催に至った。

多数の中小企業関係者が参加して、用意した資料が不足するほどの大盛況となり、関心の高さを伺わせた。

ASEAN諸国の
弁護士が講演

第1部では、マレーシア、インドネシア、ミャンマー、カンボジア、タイの法律事務所で働く弁護士から、各国の法制度、日本企業の進出状況、最新法令、日本企業が進出する際の注意点などについて講演が行われた。

インドネシアからは、外国投資会社の設立はカンボジアほど容易ではなく、設立に2

か月程度かかり、ネガティブリスト（外国投資会社は出資割合が制限されていること）があることや最低払込資本金額が高

いことなどが紹介された。
マレーシアからは、必

すしも大企業ではない。フーメン店やCG制作会社などでも出店しており、日本企業の進出がめざましいことが報告された。また、マレーシアが成長著

（イスラム金融）の中心地になっていることや、市場調査のための進出であれば設立が容易な駐在員事務所で足りることなど、進出先を選定する際の具体的な判断材料となり得る情報も提供された。

や証言も許されているなど、紛争解決方法が国際化に対応していることが魅力であるとの報告がなされた。

公的機関からも
具体的な支援策

第2部では、神奈川県や川崎市、日本政策金融公庫などから、ASEAN進出の具体的支援内容の説明があった。

業務改革委員会
も支援体制強化
を宣言

最後に、業務改革委員
会井澤秀昭副委員長が、
更なる神奈川県の発展の
ためにも当会において中
小企業の海外支援の体制
を強化したいと宣言し、
閉会となった。

(會員 飛田 桂)

弁護士が行う

実演

いじめ予防授業

堂々たる講師ぶりの中山会員

6月21日、当会主催
日本弁護士連合会・関東
弁護士会連合会共催で、
子どもの日記念行事「弁
護士が行う 実演 いじ
め予防授業」が開催され、
教育関係者を中心に、約
60名の参加者が集まった。
まずは小池拓也会員
が、本行事の趣旨につい
て、学習指導案を示しな
がら説明を行った。

その後、中山志歩会員
が講師役となり、いじめ
予防授業の実演がなされ

た。授業は、過去に実際にあった自殺の事件を題材にし、いじめの側及びいじめられる側の心情等のみならず、周囲の傍観者の心情、さらには傍観者にとどまることなく、周囲として何ができるのかという点にポイントを置いて行われた。

中山会員は登録1年目ということを感じさせない堂々とした講師ぶりです、参加者を強く惹きつ

けていた。講師役の問いかけに、参加者が生徒役として答えてくれるのか当初不安もあったが、会場から次々に手が挙がり、さまざまな発言が積極的になされ、とても白熱した模擬授業となった。

模擬授業終了後、質疑応答の時間が設けられ、会場の参加者からは多くの有意義な意見が出された。参加者からの意見は、今後授業の内容をブラッシュアップさせるにあたり、非常に参考になるものばかりであった。

今後は、11月及び12月に1校ずついじめ予防授業の試行をしたいと考え、来年度以降、本

格的に各校で授業を実施したいと考えている。

今回の行事には、報道機関のカメラも入り、当日夕方のニュースで報道され、いじめ問題に対する関心の高さを感じるとともに、この問題に弁護士が積極的に関与することの責任を感じた。

これまで、弁護士がいじめ問題に関与するというと、問題が起こつてしまった後の事後的な関与になることが多かったと思うが、今後、このような取り組みを通じ、弁護士として、いじめを事前予防することに少しでも役に立てばと思う。

(会員 井原 綾子)

(會員 井原綾子)

「解釈改憲はダメ！」
集団的自衛権行使容認に
反対する弁護士パレード

行われた。

イセザキ・モールをパレードする会員

当会会員のほか、法律事務所職員や一般市民の方も参加して、約2000名が、プラカードや色とりどりの風船、「集团的自衛権容認に反対です」と書かれたプラカード代わりの紙袋を手に、横浜公園からイセザキ・モールの中ほどまでを歩いた。

出発に先立ち、小野会長はじめ、歴代会長や元法務大臣の千葉景子会員らが、解釈改憲による集团的自衛権行使を容認することの問題性を訴えた。そして、パレードをしながら、会員らが代わる代わるのリレートークを

して、沿道の市民に訴えた。

また、出発前の横浜公園には、当会キャラクターの「みみん」と「のるん」も登場して、子どもたちの人気を集めていた。

17日は、折しも、政府が解釈改憲に関する閣議決定の原案を示した日であった。

市民の皆さんに、法律家として、問題意識を投げかけることができたと同時に、弁護士会に対して親しみやすさを感じていただける企画でもあったように思う。

私個人としては、パレードを終えた会員のみなさんが、昼食をとるために、誘い合わせて三々五々イセザキ・モールのお店に消えていったことも、神奈川らしくいいなあ、と印象に残った。

(会員 関守 麻紀子)

(會員 関守 麻紀子)

大人気の「みみん」と「のるん」

6月17日、当会が主催
して、標記のパレードが

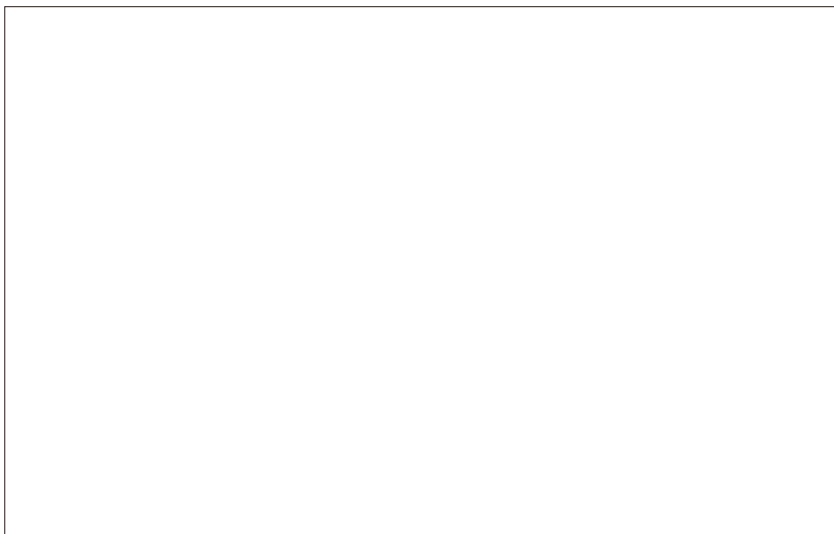
(會員 関守 麻紀子)

「全国一斉労働相談ホットライン」

12時間の実施 遠方からも



労働法制は、労使の単なる利益調整規定ではなく、働く人の生命、健康、生活を護る人権保障規定であるが、現在、これに「既得権益」というレッテルが貼られ、「規制緩和」が押し進められよう



労働者の声に耳を傾ける相談員

労働法制は、労使の単なる利益調整規定ではなく、働く人の生命、健康、生活を護る人権保障規定であるが、現在、これに「既得権益」というレッテルが貼られ、「規制緩和」が押し進められよう

労働者の声に耳を傾ける相談員

労働者の声に耳を傾ける相談員



私が地方紙で記者になった頃は、まだフィルムの一眼レフカメラを使用していた。当時もデジカメはあったのだが、連写機能が貧弱で、警察取材や野球取材には不向きだったためだ。当時の会社では、36枚撮りのフィルムを自費で購入し、紙面に写真が1枚掲載されると200円戻ってくるというおもしろいシステムを取っていて、頑張っていた。小遣い稼ぎになったものだ。

一方で、野球取材では大変な思いをした。タイムリーヒットを打った打者を撮影しても、写真の中に打ったボール

は約8年前。カメラ技術の進歩は目覚ましく、現在の機種との性能の差は激しい。正直、

携帯電話のカメラのほうで断然画質が良いのだが、そこは取材先には秘密にしておこう。腕前でカバーできればいいと思うところ。

このように言う、写真が上手と思われるかもしれないが、若手の頃、調子に乗ってマニュアルモードで撮影し、全部ピンぼけ写真になって上司に怒られた経験から、実はほとんどオートモードで撮っている。これも取材先に秘密にしている。私の撮影技術にも、目覚ましい進歩が必要と言えそうだ。

(読売新聞横浜支局 加藤 高明)

常議員会
の い ま

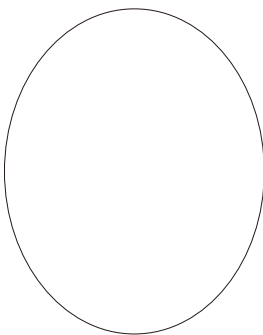
沈黙の会員

会員 松井 宏之 (36期)

今回、常議員になって感動したのが、プラスチックの名札立てでした。これはいつから始まったのでしょうか。10年ほど前の懇親会の席で、名札を置くことを提案したのですが、「そんなのなくてもいいよ」という一言で採用されませんでした。発言者の名前がわかれば顔も覚えやすく、意見も言いやすくなりますので、大変良い方法を始

めたいと思います。さて、最近の常議員の選び方はどうなっているのでしょうか。同期の中で話しかけるのは、人数が増えた関係で事実上不可能なようです。結局、同期の中で会務に関心のある一部の人が、気合で常議員会を背負って立っているのが現状なのではないでしょうか。

これはありがたい反面、「弁護士会民主主義」の形骸化にもなるような気がします。理事者や委員会の構成員を見ても、会員の一部が会務をこなしているという印象が拭えません。その結果

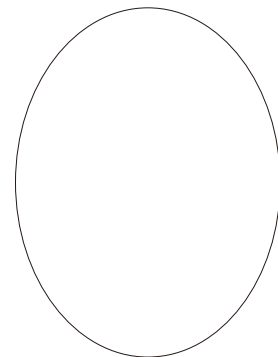


副会長となつて、たくさんした後輩弁護士から「忙しいでしょう?」と尋ねられますが、はつきり言っているだけです。毎日、800メートルダッシュを繰り返している感じ(笑)。

副会長となつて、たくさんした後輩弁護士から「忙しいでしょう?」と尋ねられますが、はつきり言っているだけです。毎日、800メートルダッシュを繰り返している感じ(笑)。

副会長となつて、たくさんした後輩弁護士から「忙しいでしょう?」と尋ねられますが、はつきり言っているだけです。毎日、800メートルダッシュを繰り返している感じ(笑)。

副会長となつて、たくさんした後輩弁護士から「忙しいでしょう?」と尋ねられますが、はつきり言っているだけです。毎日、800メートルダッシュを繰り返している感じ(笑)。



毎日800メートルダッシュ

副会長 武内 大徳

副会長となつて、たくさんした後輩弁護士から「忙しいでしょう?」と尋ねられますが、はつきり言っているだけです。毎日、800メートルダッシュを繰り返している感じ(笑)。

副会長となつて、たくさんした後輩弁護士から「忙しいでしょう?」と尋ねられますが、はつきり言っているだけです。毎日、800メートルダッシュを繰り返している感じ(笑)。

副会長となつて、たくさんした後輩弁護士から「忙しいでしょう?」と尋ねられますが、はつきり言っているだけです。毎日、800メートルダッシュを繰り返している感じ(笑)。

会員と修習生の 出会いの場を

66期会員を対象とした就職活動に関する座談会

自身の体験を語る 66 期会員

6月5日、当会会館にて、就職活動に関する座談会が開催され、就業問題対策委員会委員9名と、新入会員9名が参加した。これは、当委員会が主催する恒例行事であり、直前まで就職活動に取り組んでいた新入会員と意見交換を行い、当委員会の活動にその経験を取り入れるための企画である。

参加した新入会員からは、就職活動にて各自が工夫した点や困惑した点などにつき、忌憚のない意見が出された。特筆すべきものとして、昨今では修習生や当会会員の間に

にもSNSが普及し、これらを積極的に就職活動に活かしていたという新入会員の発言があった。ある会員は、「SNSを通じて知り合った先生から、修習生も参加できそうな弁護士会の会合などの情報をいただき、あいさつ回りを行った」と自身の経験談を語った。

給費制廃止による経済事情がある一方、SNSの発達もあり、修習生としても時間的・経済的に効率のよい就職活動を迫られているようである。就職活動の方法がこのように日進月歩であること

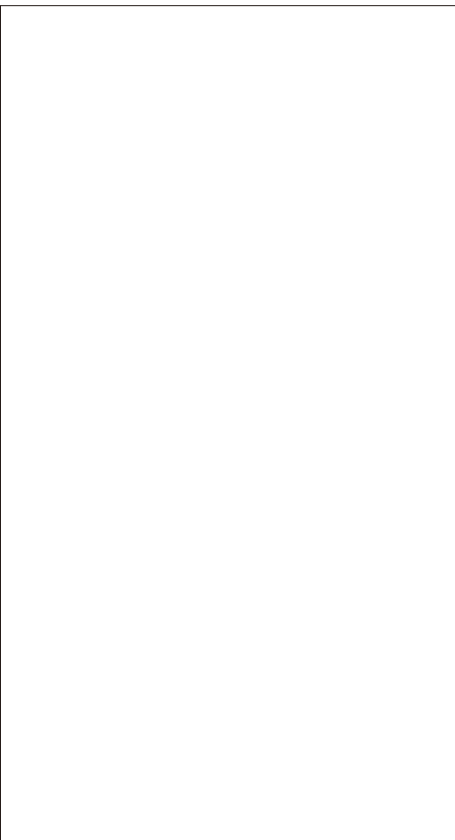
(会員 久保 友宏)

6月23日18時30分より横浜ロイヤルパークホテルにおいて、当会の水地啓子会員の日本弁護士連合会副会長就任激励会が開催された。当日の参加者は88人と水地会員の人気の高さが感じられた。小野毅会長の開会の挨拶

その後、水地会員の仲間であり、水地会員を修習生時代から知る井上嘉久会員、平成24年度の日弁連副会長として活躍し

た武井共夫会員などから激励の言葉が述べられた。それぞれ様々なエピソードを用い水地会員の人柄を語っていたが、井上会員は水地会員の素晴らしいところを「体力」という言葉で、武井会員は「緻密さ」という言葉で表現

会場は終始笑顔に包まれていた。誰もが水地会員の活躍を心から応援しようと思っている様子が強く感じられた会であった。(会員 井澤 秀昭)



朗らかに熱く語る水地会員

笑顔弾ける！

水地啓子日弁連副会長就任激励会

水地会員とともに「横浜三人娘」と並び称された高岡香会員、篠崎百合子会員からも「疲れたときは一緒に飲んで癒してあげる」と熱いエールが送られた。激励のトリは、水地会員の夫である木村保夫会員であった。木村会員は、「子供たちの弁当は俺が作る！」と照れながらも温かい言葉で水地会員にエールを送っていた。

高かった世界の壁

弁護士ワールドカップMUNDIAVOCAT2014



5月23日～6月1日、弁護士ワールドカップMUNDIAVOCAT2014ハンガリー大会が開催された。世界各地の弁護士が参加するサッカーの祭典で、今大会は25か国73チームが参加した。都市毎に参加でき、日本からは、東京、大阪、そして横浜・福岡合同チームが参加した。

初日に抽選会が行われ、予選リーグの相手は、Barra da Tijuca (ブラジル)、Bosphorus (トルコ)、オランダとなり、まさにワールドカップ！とわくわくした。

翌日、開会パレードを終え初戦へ。相手は、本家ワールドカップ開催に湧くブラジル。南米の高い技術と速さに終始圧倒

され、0-6の惨敗。試合後は、ブダペスト市内でワインとフォアグラを堪能しつつ、反省会。作戦を練り直した。

第2戦はトルコ。0-2で迎えた後半、立ち上がり早々谷脇啓太弁護士(埼玉弁護士会)が待望の今大会チーム初ゴールを決める。しかし、その後が続かず、終わってみれば1-6の惨敗。

第3戦のオランダチームは全員身長が高く、私がジャンプしても相手の頭に届かないのではと思うほどであった。結果、終始押し込まれ、0-8の完敗。

世界との力の差をまざまざと見せつけられる結果となった。

その後、中休みのパ

を踏まえ、引き続き新入会員から情報収集を行う必要性を実感した。

他方で、「修習指導担当弁護士や知人を通じて、事務所訪問を受け入れてくれる弁護士をひとりひとり当たった」と発言する新入会員もあり、これまでどおりの就職活動も依然として行われているようである。

当委員会として、今後

も就職説明会や就職応援

会を通じ、当会会員と修

習生との出会いの場を提

供できるよう活動に尽力

したい。

(会員 久保 友宏)

イスラエルチームと試合前に

イスラエルチームと試合前に

イスラエルチームと試合前に

イスラエルチームと試合前に

イスラエルチームと試合前に

イスラエルチームと試合前に

イスラエルチームと試合前に

イスラエルチームと試合前に

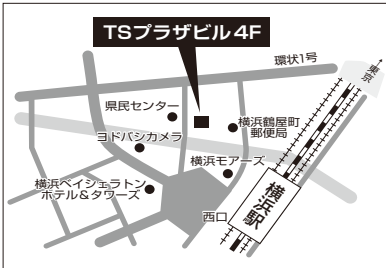
イスラエルチームと試合前に

イスラエルチームと試合前に

横浜弁護士会 横浜駅西口法律相談センター

電話/045-620-8300 予約受付時間/平日9:30~17:00

総合相談	
◆相談時間	30分以内 月～金 9:45～11:45/13:45～15:45
◆相談料金	5,000円(税込み)
多重債務相談	
◆相談時間	30分以内 月～木 9:45～11:45
◆相談料金	無料
離婚相談	
◆相談時間	30分以内 水・金 9:45～11:45 火・木 13:45～15:45
◆相談料金	5,000円(税込み)



編集後記

本年度よりデスクになりました。委員会や執行部に止められない限り、より多方面から魅力的と思われる新聞にすべく勝手気ままにやっています。

デスク 三橋 潔
記者 滝島 広子
千歳 博信
大河内万紀子
奥園 龍太郎

ティーが開催され、他国の弁護士との交流を深めるなどリフレッシュし、順位決定トーナメントに臨んだ。

トーナメント初戦は、HAIFA(イスラエル)と対戦。拮抗した試合展開であったが、後半に失点を許しそのままタイムアップ。第2戦は、ケベック(カナダ)と対戦し、PK戦にもつれこむも惜しくも敗戦。

第3戦、第4戦は、まさかの東京・大阪との連戦であった。

(会員 砂子 昌利)

戦。海外まできて日本のチームと試合かと思いつつも、絶対に負けられないとチーム一丸となり連勝。大会結果は、32チーム中28位に終わったが、日本一となった。

世界には本当に弁護士なのかと思うほどの体格をした選手ばかりで、力の差を思い知ったが、世界の弁護士とサッカーをするという希有な経験ができ、とても充実した大会であった。

と書いています。よろしくお願います。

デスク 三橋 潔

記者 滝島 広子

千歳 博信

大河内万紀子

奥園 龍太郎